



SASAKURA

大和町立宮床中学校 校長 森山 治
《住所》大和町宮床字四辻13番地の7
《電話》022-346-2006

第79回卒業式 校長式辞

頬をなでる風に春の柔らかな日差しが感じられ、校庭の木々が新たな生命の輝きを放ち始める今日のよき日。たくさんの方々に見守られ、令和七年度 大和町立宮床中学校 第79回卒業式を盛大に挙行できますこと、心より嬉しく、深く感謝申し上げます。

137名の卒業生の皆さん、御卒業、本当におめでとうございます。先ほど、担任の先生から一人一人名前を呼ばれ、真っ直ぐな眼差しで、堂々と受け取った卒業証書。その一枚を手にした皆さんの姿からは、3年前の入学式の頃に比べ、驚くほど大きく、力強く成長していることが伝わってきました。

その証書は、義務教育9年間の課程をすべて修了した証であると同時に、皆さんがこの学び舎で、一日一日を懸命に悩み、考え、積み重ねてきた努力の結晶です。今日という日を迎えるまで、決して平坦な道ばかりではなかったはずです。自分自身と向き合い、葛藤し、それでも前を向こうと奮闘してきたその全ての時間が、今の皆さんの逞しさを作っています。

3年間の宮床中学校での毎日を振り返ると、そこにはいつも、皆さんの弾けるような笑顔と、周りを明るく照らす溢れんばかりのパワーがありました。

体育祭。「絶対勝たせるから俺についてこい」というカラー団の団長を筆頭に、互いに声を掛け合い、勝利を目指して泥だらけになって駆け抜ける様子には「これぞ3年生」という気概と強い団結力を見せつけられました。

合唱コンクール。まほろばホールいっばいに響き渡るハーモニー。妥協することなく、仲間と共に高め合い、切磋琢磨して作り上げたあの歌声には、聴く者の心を震わせる力強さがありました。

見るもの、触れるもの全てに、目を輝かせて、全力で楽しんで修学旅行。計画をやり遂げようとする責任感や仲間を気遣う一人一人の優しさ、そして困難があっても笑顔を絶やさない、前向きさを感じることができました。

昨年の卒業式で三年生に向けて「一剣を持って立つ」という言葉を贈りました。自分自身の足で立ち、信念を持って人生に立ち向かう「自立」の精神を説いた言葉です。この1年、皆さんは最上級生として、まさにその「一剣」を研ぎ澄ませ、学校のリーダーとして立派に成長してくれました。そんな皆さんに、今日、新たに贈りたい旅立ちの言葉があります。それは、「**志ある者は、事ついに成る**」という言葉です。

自分という個を確立し、自立の剣を手にした皆さんが、次に持つべきもの。それは、その力をどこへ向けるのかという「志」です。「志」とは、単なる個人の夢や目標を超え「自分はどう生きたいか、社会の中で何を成りたいか」という、魂の指針です。

これから歩む道には、思い通りにいかない日や、立ちすくむような向かい風の日もあるでしょう。しかし、明確な志を持ち、前向きに歩みを止めない者には、道は必ず開かれます。体育祭や合唱コンクールで見せたあの「高め合うパワー」を信じ、志を高く掲げて進んでください。志を持った皆さんの歩みは、たとえ時間がかかったとしても、最後には必ず大きな成果となって結実する「**志ある者事ついに成る**」ものと確信しています。

最後になりましたが、本日御臨席賜りました保護者の皆様。お子様の御卒業、誠におめでとうございます。九年間の義務教育を終え、心身ともに逞しく、そして心優しく成長したお子様の姿に、感慨もひとしおのことと拝察いたします。思春期という多感な時期、お子様に寄り添い、支え続けてこられたこれまでの歩みに、深く敬意を表すとともに、本校の教育活動に深い御理解と御協力を賜りましたこと、学校を代表して心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

お子様達は本日、この学び舎を巣立ちますが、人生の旅はまだ始まったばかりです。これから先、彼らが壁にぶつかり、立ち止まりそうになった時には、どうかこれまでと変わらず、一番の理解者として、温かく、時には厳しく、その背中を支えてあげてください。皆様の変わらぬ愛情こそが、彼らが未来へ踏み出すための最大の勇気となります。これからもお子様の輝かしい未来を見守り、導いてまいりますよう、よろしく御願ひ申し上げます。

卒業生の皆さん、いよいよ旅立ちの時です。「一剣」を持って立ち、その手に「志」を携えた皆さんなら、どんな未来も堂々と切り拓いていけるはずです。伝統ある宮床中学校で学んだことを誇りに、自信を持って、笑顔で未来へ羽ばたいてください。新しいステージへと旅立つ137名の皆さんの前途に、幸多かれと、御列席の皆様と共に心から願ひ、式辞といたします。

令和8年3月7日

大和町立宮床中学校 校長 森山 治